

「ポストコロナの逆風下」で安定的な完全在宅就労を支える 体調セルフマネジメントツールと業務管理ツールの併用事例

○福元 邦雄（三菱商事株式会社 人事部 健康推進・DE&Iチーム 担当シニアマネージャー
精神保健福祉士/産業カウンセラー/企業在籍型職場適応援助者/中小企業診断士）

1 発表骨子

三菱商事株式会社（以下「当社」という。）として史上初となる完全在宅型での障がい者雇用を今般開始した。

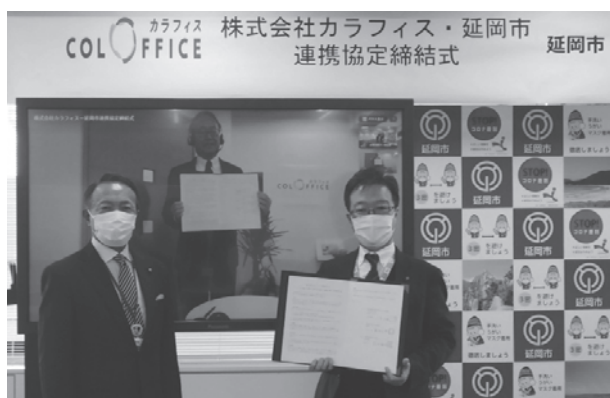
新型コロナウイルス感染症の5類移行の流れを受けて、世の中の的にも在宅勤務から出社へと潮目が変わる実感があった。当社特例子会社（三菱商事太陽株式会社）出向中の2020年度、完全在宅で障がいの有るシステムエンジニア養成と雇用モデルで厚生労働大臣表彰「輝くテレワーク賞」特別奨励賞を受賞した経験のある発表者といえども、当社社内調整に相当の工数が割かれた（受賞概要関連動画：<https://www.youtube.com/watch?v=4Y7oVWZe1Lc>）。

今般の当事者社員は宮崎県延岡市在住の精神に障がい（うつ病及びADHD）の有る方。体調不良にどう備えるのか、遠隔地での業務遂行をどのように管理するのか？

各種の課題を克服できたのは多くの関係者のご支援のみならず以下ご紹介する2つの有効なツールの併用の成果に他ならない。

2 そもそもなぜ延岡市だったのか？

発表者は前述の特例子会社（本社大分県別府市）出向中に延岡市の読谷山洋司市長の視察を受けた。その後同市は株式会社カラフィス（三井正義社長 本社神奈川県）とテレワークによる障がい者の在宅雇用推進に係る連携協定締結に至る。



延岡市ホームページより：2021年8月連携協定締結式
(<https://www.city.nobeoka.miyazaki.jp/soshiki/31/2437.html>)

そもそもコロナ禍前から浸透しつつあったテレワークによる障がい者雇用。大都市圏における障がい者求人の需給関係が逼迫する中、地方在住求職者と大都市圏の求人企業

をつなぐソリューションに、いち早く注目した読谷山市長の慧眼に敬意を表して、今回「延岡市在住者」を最優先に求人を行った。前出のカラフィスを始め、のべおか障害者就業・生活支援センター、一般社団法人社会福祉支援研究機構傘下の就労移行支援事業所 グッドライフパートナー 延岡の関係者の皆様方には多大なるご支援を頂いてきた。この場をお借りして改めて御礼申し上げたい。

3 逆風下の完全在宅勤務

厚生労働省公式YouTube動画（下記リンク）でもお伝えした通り、私的な空間であっても勤務時間中は「会社の執務空間」である。緊張感を保って集中できるか。かつて自宅の勉強部屋では能率が上がらず、図書館に行って漸く集中できた経験を持つ読者諸氏は決して少なくない筈だ。



厚生労働省公式YouTubeチャンネル：2021年12月事例紹介
(https://www.youtube.com/watch?v=Esl_KN_OV70)

本来リラックスする目的で設営された私的空間において一定程度のストレスを伴う業務に継続的に集中する為には、障がいの有無に関わらず、相当な覚悟と気持ちの切り替えが必要となる。昨今の出社回帰への流れはコロナ禍で急遽在宅勤務を余儀なくされた多くの人々の本音かも知れぬが、コロナ前より入念に在宅勤務やその就労訓練を重ねていた障がいの有る方々にはまさに逆風としか言いようがない。

4 D&I社の「エンカククラウド」との出会い

そんな中、100社以上の導入数No. 1の実績を誇るツールと出会う。障がい者専門斡旋業等で創業14年の株式会社D&I（小林鉄郎社長 本社東京都）の「エンカククラウド」

だ(図1)。



図1 テレワーク型障害者雇用プラットフォーム「エンカク」

その機能は体調把握・管理に始まり、勤怠管理、タスク管理、ファイル共有、と数多くあるが、中でも秀逸なのが「画面キャプチャー機能」だ(図2)。



図2 「エンカククラウド」6つの機能

10分毎に勤務者のPC画面が自動キャプチャーして共有されるため、当然、勤務者は一定程度の緊張感の下で仕事をすることとなる。当社では個人情報を整理事務の場合などはこの機能を手動でオフにするなど、多少の運用上の工夫をしている。当社社員によれば「手元をカメラで写しておくように」と言われた別の企業と比べると、はるかにストレスが低い、との実感だ。監視されているという印象を極力避け、逆にきちんと業務していることのエビデンスを関係者で共有するという透明性は、在宅勤務していない他の社員感情の面からも非常に公平感のあるものである。

さらに「これこそが本当にずっと前から欲しかった！」との歓喜の声と共に活用しているのが「タスク管理機能」。

複数タスクの消化率表記や納期設定を行うことで、ADHDの特性などから、優先順位付けや進捗を記憶しておくことが苦手な場合でも生産性の向上が期待できる。

5 「1万人の物語」に基づく「キモチプラス」

更に当社はネクストワン合同会社(武田吉正代表 本社東京都)の「キモチプラス」(特許出願中)も併用する。同社運営の障がい者雇用の口コミサイトには1万人超もの生きづらさや働きづらさにどう向き合うか、という具体的

な対処策情報が蓄積されている。それが「キモチプラス」の「トリセツ」を通じて当事者自らがセルフケア力を向上できるように組み込まれている。単なる体調管理ツールに留まらないのは、セルフケアした上でも不調入力が続いた場合は任意設定可能な支援者にも自動アラートされる点だ。

所謂「赤に近い黄色状態」で長時間フォローした挙句に、離脱に至ってしまうことなく、「青に近い黄色」で即座にフォロー可能で対応時間も削減される。日報のやりとりという工数もなく、管理者の負担軽減が徹底されている(図3)。

当事者は定期的に入力データを振り返ることで、好調・不調の要因を推定し自己理解を進め、深化する対処策も「トリセツ」に生成されていく(図4)。「キモチプラス」導入後の就労移行支援事業所では面接通過率が倍増。就職後の離職率も半減した事例があることも当社が起用を決定した背景だ。



図3 「キモチプラス」日々の体調・メンタル状況の入力

当事者の特性可視化、管理補助ツール KimochiPlus

選択肢を選ぶだけで、特性、対策、マネジメントの推奨事項の資料をA4一枚(PDF出力可能)で作成。10,000件の雇用事例DBから作成するため、現実的な対策、マネジメント方法をレコメンド。データは増加を続け、精度が継続向上中。



図4 1万人超の物語DBから生成される「トリセツ」

6 見えないものを見る努力

在宅か出社か?障がいがあるか無いか?は本質ではない。潜在的な課題を可視化して対処する、即ち「見えないものを見る努力」の覚悟はあるか? 距離を超え働きづらさを克服するこれらのツールはそんな覚悟を後押ししてくれる、「魔法のココロの車椅子」ともいえるものである。

【連絡先】

福元邦雄 kunio.fukumoto@mitsubishicorp.com